

株式会社アルバック

2018 年度第 2 四半期 決算説明会（2019 年 2 月 14 日開催）

およびアナリストミーティングの主な質疑応答

【全般】

1. 今期の通期受注が当初計画を大幅に下回る要因について改めて説明してほしい。

- A：(1) 半導体メモリ各社の設備投資につきましては、弊社の上期（18 年 7 月～12 月）は延期等の影響を織り込み、下期（19 年 1 月～6 月）には徐々に回復するものと考えていましたが、18 年 12 月以降、設備投資延期の動きが想定以上に広がり、下期にも大きく影響することから、半導体電子の受注が通期で 134 億円下回る見込みとなりました。
- (2) 中国の太陽電池関連の投資に延期の動きがみられ（通期で 100 億円程度）、また、韓国の大型 TV 向け OLED 投資の延期もあり、FPD 関連の受注が 136 億円程度下回る見込みです。
- (3) ①コンポーネントについては、上期は好調でしたが、半導体装置メーカーなどのセットメーカー向けの受注が低下し 15 億円、②一般産業については、中国の磁石関連の投資延期等があり 27 億円、③材料については、韓国のスマートフォン向け OLED のバックプレーン用のターゲット材料が低調だったこともあり 39 億円下回る見込みです。

これらにより、当初受注計画 2,600 億円に対し 350 億円下回り、2,250 億円となる見込みです。

2. 2Q の受注 417 億円に対して、下期（3・4Q）予想が 1,055 億円ということで、平均すると上がっていくように見えるが、どのような品目が伸びるのか、また、3Q・4Q で強弱があるのか、教えてほしい。

- A：足下見直した予測では、3Q が若干強めの予測となっています。下期は、大型 TV 向けや OLED 関連の受注を予定しています。半導体メーカーの設備投資延期の関係で半導体関連は低調となると見込んでいますが、その分、通信デバイスなど電子分野がけん引すると考えています。

3. 上期売上高は下がっているが、売上総利益率は過去最高になっている。製品ミックスの影響なのか。今後の高利益率の持続性はどうか。

- A：製品ミックスの影響で改善した面が大きいです。今後も、利益率が相対的に高い半導体電子やコンポーネントを中長期的に伸ばしていく計画であり、さらに利益率を改善していきたいと考えています。

4. 下期に利益率が下がる要因の一つに開発的要素の高い案件のコスト増加との説明があったが、売価が落ちてきているようなことはないか教えてほしい。

- A：下期利益率低下の要因は、基本的には、売上減少に伴う利益の減少と、それに加えて、開発的要素のコストの影響が主因であり、売価が下がっているというようなことはありません。

【半導体関連】

5. 半導体メーカーの投資回復時期について、足元の情報があれば教えてほしい。

A：昨年末から年初にかけて、半導体メーカーの更なる投資計画延期の動きが明らかになってきましたが、旧正月が明けて、ある大手海外メーカーが中国および自国で早めに投資再開すると発言するなどトーンが変わってきました。やるべき投資はやるという動きが複数のメーカーから聞こえてきており、延期されていた投資が少し早まる可能性も出てきています。

6. 半導体メモリの投資回復は、DRAM と NAND いずれが先に回復すると考えているのか、またアルバックのどのような装置を納入していくのか教えてほしい。

A：DRAM の方が需給の観点から投資再開は早いという見方もありますが、中長期的に増加が予想される NAND に対し、競争優位を確固としたものにするために先行して投資しようという動きもあります。弊社の製品は、主に配線関連のスパッタリング装置とクリーニングに使う自然酸化膜のエッチング装置が柱となっています。

【FPD 関連】

7. 同業他社で中国広州の大型 TV 向 LCD 装置 (G10.5) の受注案件について、顧客都合で搬入の延期が発生していると聞いているがアルバックはどうか。

A：今のところ当社では延期となったということはありません。

8. FPD 中の OLED (有機 EL) の受注・売上は通期でどのようになりそうか。

A：FPD の通期の当初受注計画 1,060 億円に対し、現状は 924 億円となる見込みです。

OLED はその 4 割前後で、額としては韓国的大型 TV 向け投資延期の影響が大きく、計画比減少する見込みです。売上は、現状の見込みである 900 億円に対して 4 割弱となります。

9. 2020 年以降に大型 TV 関連で μ LED などの話があり期待したいが、量産するには品質等に課題等があると思う。今後どのようなスケジュール感をもっているのか。

A：大型 TV 関連の QD-OLED や μ LED などの新しいアプリケーションは、まだトライ & エラーの段階で量産化やコストなどの課題を抱えています。足元的大型 TV に関連する投資は、しばらくは液晶が主軸として続くと考えていますが、韓国のパネルメーカーを中心に差別化のための OLED・ μ LED 等の開発を進めており、中長期的には期待しています。

10. OLED に関して、既納のユーザーが他社に切り替えるような話があったようだがどうか。

A：初号機・2 号機を受注していた先で、3 号機を他社が受注しましたが、4 号機については現在、商談中で弊社受注の可能性が高いと思っています。また、別の中国メーカーに既に初号機と 2 号機を納めていますが、3 号機・4 号機の受注が決まっています。

11. OLED 等の開発的要素の高い案件のコスト増が利益率を下げているが、具体的にはどのような費用で、今後も継続発生するリスクは無いか。

A： OLED 案件については、現地工場での人件費や人の移動・生活コストなどの追加発生が見込まれることから、今後かかると想定されるコスト増を予防的に今期の予想の中に取り込んだものです。

フロントローディングの徹底をさらに進めており、また今回予防的にコストを織り込んでいますので、今後、さらに追加的なコストの発生は無いものと考えています。

12. 開発的要素の高い案件のコスト増加は一見するとネガティブのように見えるが、危ぶまれていたフェーズ 2 の投資案件を受注できるという観点からはポジティブにとらえられるようにも感じるがどうか。

A： OLED の中国での第 1 フェーズの投資では、当社の未熟さやお客様自身も試行錯誤中であるなど完璧なものがない苦しい面もありました。

中国に複数のお客様があり、うまく立ち上がっている会社もあります。そのお客様が中国大手のスマートフォンにサンプリングし結果が良く、更なるフェーズの話にもつながっています。中国では第 2 フェーズの投資が始まっており、次なるフェーズのためにも、第 1 フェーズの装置の生産性等を上げることが重要であると考えています。

以上